

新興国レポート

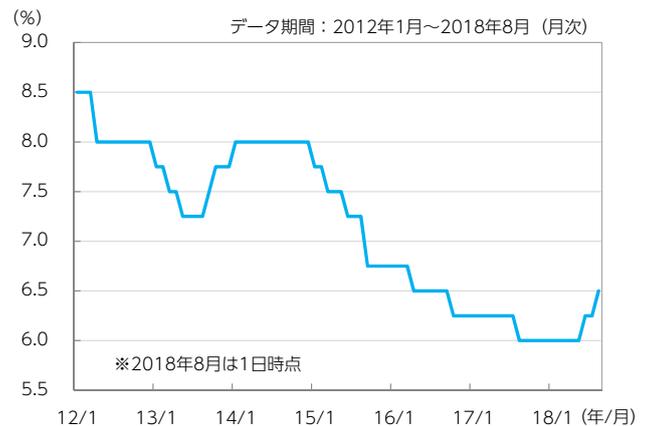
インドが2会合連続の利上げ

インド準備銀行の迅速な利上げがインフレ懸念を後退させる可能性も

- ✓ インド準備銀行（RBI）は8月1日、2会合連続で政策金利の引き上げを決定した。今後の政策スタンスは「中立」を維持した。
- ✓ 今回の追加利上げが一部で高まりつつあるインフレ懸念を後退させ、インド債券市場や株式市場の支援材料となることも考えられる。

- インド準備銀行（RBI）は8月1日の金融政策委員会で政策金利を0.25%引き上げて6.50%にすることを決定し、即日実施しました。利上げは前回6月に続き2会合連続となります（図表1）。ただ、今後の政策スタンスは「中立」を維持し、景気や物価動向を見定めながら政策の舵取りを行うこととしました。尚、次回の会合予定は10月4日です。
- 2017年7月のGST（財・サービス税）導入に伴う混乱から2017年4～6月期に前年同期比5.6%増まで落ち込んだ実質GDP（国内総生産）成長率は、2018年1～3月期には同7.7%増まで回復しています。旺盛な個人消費や、国内需要の約8割を輸入に頼る原油価格の上昇等を背景に、インドの消費者物価（CPI）（前年同月比）はRBIが中期目標とする4%を2018年6月時点で8ヵ月連続上回って推移しており（図表2）、物価上昇が加速する懸念も一部では始まっています。RBIはインフレ抑制のための連続の利上を行っても、足元の勢い等からみて景気を冷え込ませるリスクは小さいと判断したものと考えられます。
- 8月1日のインド株式（SENSEX指数）は前日比0.2%下落しました。同指数は7月月間で6.2%上昇しており、損益確定の売りに押されたものと見られており、利上げの影響は限定的であったようです。6月初旬につけた8.0%をピークに低下傾向となっていたインド10年国債金利は、RBIが迅速に対応したことでインフレ懸念が後退する等の判断から低下（価格上昇）が進みました（図表3）。
- 6月末に一時1バレル74ドル台まで上昇した原油価格（WTI原油先物価格）は、サウジアラビアの増産等により足元は68ドル台まで下落しています。今回の追加利上げや原油価格の下落等を背景に、今後CPIの上昇率が鈍化し、金利が低下しやすい環境になることも想定されます。企業の借入コストの低下観測等を通じて、株式市場にも好影響をもたらすものと思われます。

図表1：インド政策金利



図表2：インド消費者物価



図表3：SENSEX指数及びインド10年国債金利



出所) 図表1～3はブルームバーグのデータをもとに
ニッセイアセットマネジメント作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>